

山口市中心市街地活性化協議会

(山口県山口市)

歴史と自然、文化の薫る山口市の中心市街地が、にぎやかだ。多くの地方都市と同様に吸引力を失いかけていたが、独自の空き店舗対策やイベント開催、市民向けの積極的な広報や借上型市営住宅と再開発ビルの整備などで往時の勢いを取り戻しつつある。

その中心的な役割を果たしているのが山口市中心市街地活性化協議会(山口市中活協)。第1、2期の中心市街地活性化基本計画に基づき、資源を生かしながら周囲との連携を深めて定住人口増やにぎわい創出の事業を展開している。山口市中活協のタウンマネージャーとして市民連携や新たな仕組みづくり、広報誌発行などに取り組む有田實さんに、これまでの取り組みや今後の展望について聞いた。



ありた みのる 有田 實氏

百貨店でマーチャンダイジング部門を長く経験し、その後、百貨店業態以外の新規事業計画の立案、実施を行う。平成23年に山口市中心市街地活性化協議会のタウンマネージャーに就任し、現在に至る。平成26年から中小機構の中心市街地商業活性化アドバイザーにも就いている。64歳。

山口市中活協とは

山口市中活協は、山口商工会議所や山口商店街連合会などで組織され、中心市街地活性化基本計画の策定、推進に当たり山口市と協議を行い、新たな施策の方向性等を提言する組織です。

山口市の中心市街地活性化の取り組み

平成19年5月に国から第1期計画の認定を受けた。そのときに掲げたのが、①にぎわいのあるまち、②暮らしやすいまち、③自然と文化の薫るまちの創造。期間は平成25年3月までで当初計画から1年延長して行った。

第1期の主な事業は

商業では複合商業施設どうもんパークとマルシェ中市等を整備し、都市空間作りの観点からは中心市街地を貫流する一の坂川周辺地区整備事業に取り組んだ。福祉や利便性の向上として子育て支援の拠点施設や高齢者向けのまちの駅、市民活動支援センターを位置付けた。定住人口増加のために中心市街地に借上型市営住宅の整備を行い、交通アクセスの向上としてコミュニティバスの運行を位置付けた。

第2期計画と進捗は

平成26年4月から平成31年3月までの5年間の計画を策定し、国の認定を受けスタートした。丸3年が終わろうとしているが、平成27年7月に一の坂川交通交流広場がオープンし、同年12月には店舗と住居の再開発ビル「リュシオル中市」が完成した。

空き店舗対策事業は

空き店舗対策事業は継続して行っており、まちなイベントも商店街とまちづくり会社「街づくり山」が連携して続けている。山口市

屋が多い。それゆえに建て替え促進ができていない背景がある。狭路道路を改修したり、家の建て替えを促進したりすることで優良な住環境、住宅地の確保が必要になる。



毎年4月に発行する広報誌「くるニヤッ!やまぐち」市内全世帯に配り、関心を集めている。

構想も

現在、中心市街地とその周辺の道路と公共施設、商業施設のバリアフリー化の計画を山口市で策定しており、事業実施は平成29年度以降になる。中心市街地活性化という商業のことに特化したイメージがあるが、実際の活性化は、全部を含めてまちが持続発展するようなことを考えていかなければならない。

タウンマネージャーの役割や取り組み

初期段階から重要度の高い業務として、空き店舗対策があり、仕組みづくりを行った。具体的には出店希望者がいた際に、対応をタウンマネージャーが一元化して引き受けるようにした。そして出店希望者と面談の上で店舗の業種、広さ、経済条件などを聞いて、絞り込んだものを紹介している。情報が一元化されていることから最短距離で出店につながり、開店のアドバイザーもできる。

空き店舗対策の考え

消費者のニーズや商圏の環境が変われば、商店街も変化していく。変れば維持は難しい。最近の消費は「もの」から「こと」「時間」に変わっている。それに対して山口市の中心市街地の店舗バランスは、かつて広域な商圏を持っていたため、買い回り品やわざわざ買ってくる店舗の構成比が高かった。「こと」「時間」を消費する飲食店やサービス業が求められていく時代になったので、その業種の誘致に重きを置いた。人口減少社会の中で日常性や来街頻度を高めることが通行量増やにぎわいにつながる。

中小機構との関わり

毎月1回の山口市中活協の定例会議に、中小機構(独立行政法人中小企業基盤整備機構)の専門家が中心市街地サポートマネージャーも参加し、事業の進捗よくについてアドバイスをいただいている。当然うまくいく事ばかりでなく、停滞したり、方向感が変わったりすることが出てくるが、見識のある専門家の意見が聞けるので心強い。

また、中小機構が年に数回開催する中活協の全国や中国地域の交流会では、他地域の事例を知ったり、そこで活動している方と交流したりして、いろいろな提案が受けられることも大きい。国の制度が変わった際は、分かりやすい説明で制度の利用方法のアドバイスがあり、ありがたい。

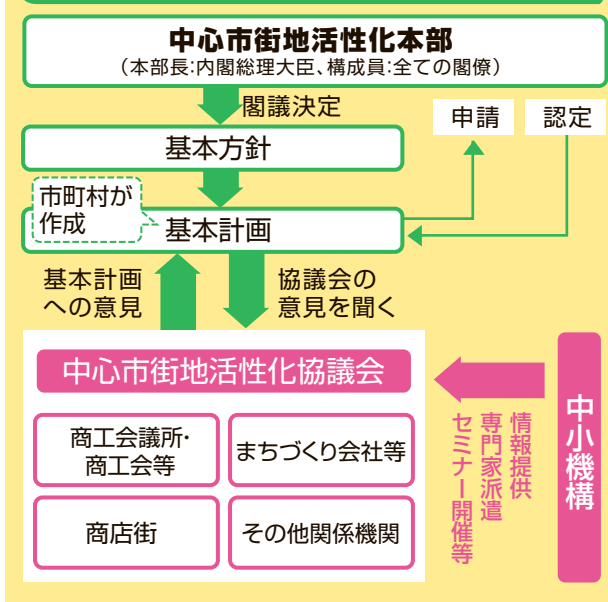
全国を見ると中活協が形骸化する地域もあると聞かすが、中小機構の専門家に山口市中活協の会議に参加していただいている。ある意味では厳しく、中活協の機能をどう果たしていくかアドバイスを受けている。

専門家によるアドバイス以外にも、事業の組み立てについての中小機構の支援プログラムがある。新たな案件が出てきた際に、密度の濃いサポートを利用したい。

目標は商業の活性化、まちがにぎやかになることだが、それに近づくと手段は一つではなく複合的。市民連携の場である中活協のコーディネーター役として、今後も市民の連携を密にして、それぞれの役割を認識しながら、市民の皆さんと一緒に持続的なまちづくりを進めていきたい。

毎月1回の山口市中活協の定例会議に、中小機構(独立行政法人中小企業基盤整備機構)の専門家が中心市街地サポートマネージャーも参加し、事業の進捗よくについてアドバイスをいただいている。当然うまくいく事ばかりでなく、停滞したり、方向感が変わったりすることが出てくるが、見識のある専門家の意見が聞けるので心強い。

中心市街地活性化法のスキーム



中小機構 中国本部

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 中国本部

まちづくり支援関連情報 →

<http://www.smrj.go.jp/chugoku/>

TEL 082-502-6688 FAX 082-502-6690 (地域振興課)

〒730-0013 広島市中区八丁堀5-7 広島KSビル

中心市街地センター

検索

国による中心市街地活性化法の認定を受け、コンパクトでにぎわいあふれるまちづくりを目指して、各地で中心市街地の活性化に向けた取り組みが推進されており、まちづくり会社や商工会議所など、多様な民間主体によって組織される中心市街地活性化協議会が、商業活性化の推進など、まちづくりに関するコーディネート役割を担っています。中小機構は、中心市街地活性化協議会などに対する情報提供、専門家の派遣、セミナーの開催などの支援を行っています。